

事務事業名	白根乗馬福祉公園管理事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5017					
			所属課室	福祉課		課長名	野呂瀬毅明					
			所属担当	障害者生活支援担当		担当者名	中澤弘樹					
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
		17	社会福祉の充実		01	一般	03	01	02	02	00	03
政策		30	障害者福祉の充実		事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金						
施策												
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 15 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）		法令根拠	南アルプス市塩前フレンドリーセンター条例								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 ・塩前フレンドリーセンターの管理業務及びホースセラピー（乗馬療法）業務の委託管理に関する事業				事業費の主な内訳（22年度）							
					項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
					修繕料		280					
					施設維持管理委託		10,816					
					不動産借上料		180					
								計		11,276		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	・ホースセラピーに重点をおいた乗馬事業
23年度活動予定	・ホースセラピーに重点をおいた乗馬事業
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
障害児、者に対して	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
馬と触れ合うことにより心の癒しと、乗馬をすることにより筋力の回復等を促す	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
障害児、者が社会生活を楽しくおくれるようにする。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア 乗馬公園来園者数	人
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア 身体障害者手帳所有者数	人
イ 療育手帳所有者数	人
ウ 精神障害者手帳所有者数	人
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア アンケートで満足したと答えた割合	%
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア 社会生活を楽しくおけていると答えた割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	13,179	11,276	13,150	13,150	13,150	13,150	
	事業費計 (A)			千円	13,179	11,276	13,150	13,150	13,150	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	96	150	100	100	150	100		
		人件費計 (B)	千円	428	669	396	396	594	396	0	
		(A)+(B)			千円	13,607	11,945	13,546	13,546	13,744	13,546
活動指標		アイ	人	4,602.0	3,409.0	4,500.0	5,250.0	6,000.0	6,300.0		
		ウ									
対象指標		アイ	人	2,838.0	2,941.0	3,066.0	3,066.0	3,066.0	3,066.0		
		イ	人	405.0	413.0	433.0	433.0	433.0	433.0		
		ウ	人	441.0	506.0	465.0	465.0	465.0	465.0		
成果指標		アイ	%								
		ウ									
上位成果指標		アイ	%								
		イ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併以前の白根町の事業を継続した
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	平成23年度から馬主が指定管理者となったことで管理及び運営が一体的に実施することとなり、統一化、合理化が見込まれる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	現状のままでは、費用対効果が見込まれない状況であるので、PR等を含め積極的に運営をしていくよう指摘があった。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過（取り組みしていない場合はその理由）	利用料金の改定
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	指定管理者の再選定により管理、運営主体の統一化を図った。

事務事業名	白根乗馬福祉公園管理事業	所属部	保健福祉部	所属課	福祉課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 地域での交流づくりの場として障害者に利用されている。 利用者数については、昨年度は天候に恵まれず減少した。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 心身のケアが目的であるので、費用に対してすぐ効果が現れるという性質ではないと思われる。長期的に継続して事業効果を図っていくべきである。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 対象が広く一般市民というものでなく、心身に障害をもつ人のケアを目的としているため、運営的に利益を追求するだけではないので、公共で行うのが妥当
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 主に対象が、心身障害者であるので今後広報等でPRし広く一般市民にも利用してもらえる施設としていく。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 毎月計画的に障害者施設の乗馬教室があるため、影響がある。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 地域での交流づくりの場として障害者に利用されているため。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 今後の来客者数によっては、指定管理者が馬主に変更になったことにより、施設にいる馬の頭数を違う場所に移すなど減数も視野に入れて考えていく。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 動物を扱っているため時間の短縮等は厳しく、また、現在必要最小限の人数で管理、運営しているため減数は厳しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 対象はあくまで身障者、また、市民であるため公平である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	指定管理者が変わり、利用者増加に期待するが市民に対するPRを行う。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
① 白根乗馬福祉公園を市民に対して啓発活動を実施。		(5) 事務事業優先度評価結果																						
②		成果優先度評価結果	⑨																					
③		コスト削減優先度評価結果	③																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																								
① 乗馬の楽しさ、ホースセラピー(乗馬療法)、乗馬を通じた健康増進などの情報発信を行っていく。																								
②																								
③																								